

\* パリサイ人たちはイエスに向かって「あなたは一体誰なのですか」と問う。8章24節の「わたしのこと」28節の「わたしが何であるか」という訳のギリシャ語「エゴ・エイミ」は、直訳すると『わたしが「わたしはある」である』となる。「わたしは存在する」という意味である。イエスは、この世ができる前から存在し、今も存在し、これからも存在し続ける、そういう者であると言われたのである。何かによって造られたものではない、創造主なのだということだ。イスラエルの人たちは出エジプト記3章にあるモーセの出来事を思い出したであろう。ホレブの山で燃える芝の中に現れた神が、モーセにイスラエルの民をエジプトから連れ出せと仰せられた時、モーセがあなたの名前は何と答えたらよいかという質問に対し、神は「わたしは『わたしはある』という者である」と答えられた。このヘブル語4文字(英語では YHWH ヤーウェ)の神と自分とは同じなのだといエスは主張されたのである。

\* イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げてしまうと、その時、あなたがたは、わたしが何であるか、また、わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していることを、知るようになります。(8 : 28)「人の子を上げる」とは、イエスが十字架につき、よみがえって天に昇ることであり、そうなる初めてパリサイ人たちはイエスが神であり、父とひとつであることを知るだろう、と言われる。

\* それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。」(8 : 24) イエスは、預言の書にもはっきり書いてある通り、世の罪、人の罪を解決するために世に降ってきたのに、信じなければあなたがたは「罪の中で死ぬ」と言われる。これは当時のパリサイ人や、律法学者や、祭司長たちだけに言われているのではなく、今の私たちに向かっても言われていることである。「イエスが、これらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた」(8 : 30) 私たちも信じる者になりたい。